ふくしま県人会だより

第40号
令和元年8月
福島県人会
北海道連合会

福島県人会北海道連合会会長　あいさつ

福島県人会北海道連合会
会長　田中　四郎

年号が令和に変わった五月十八日、第四十七回福島県人会北海道連合会総会、懇親会が旭川市に於いて開催されました。

御来賓として、福島県副知事鈴木正晃様、福島県議会副議長柳沼純子様、北海道上川総合振興局副局長今井敏文様、旭川市長西川将人様、衆議院議員佐藤英道様、参議院議員若松謙維様、北海道議会議員東国幹様、福島県県民広聴室長鈴木正彦様を御迎えして、さらに道内各地県人会から大勢の会員の皆様の御参加をいただき盛大に行われました。開催担当の旭川福島県人会の佐藤会長をはじめとして、会員の皆様の御努力、御協力のお蔭で全ての行事が無事に終了出来ましたことに心から御礼を申し上げます。

総会で全ての事案が審議され、出席会員の皆様から承認を得た所でございます。式典の部では、美幌福島県人会会長近藤康弘様に知事感謝状が授与され、さらに連合会会長表彰を授与されました会員の皆様には、改めて御祝を申し上げる次第でございます。

連合会行事ではありませんが、今年も五月十一日、函館福島県人会行事による、明治二年箱館戦争の会津藩士の慰霊碑がある高龍寺内の傷心惨目碑前の法要に、長谷川所長と参列して線香をあげて参りました。

東日本大震災後丸八年経過の母県福島県は震災の復興は進んでおりますが、我国初めての原子力発電所の事故由に、母県産の海産物、農産物の風評被害は、まだまだ解消されておりません。道内各県人会の皆様には、変わらぬ福島県への御支援と情報の発信に今後共御協力を賜ります様に御願い申し上げまして挨拶といたします。

連合会の活動

第四十五回福島県人会北海道連合会総会が開催されました

第四十七回福島県人会北海道連合会総会が、旭川市の「アートホテル旭川」で、五月十八日（土）に開催されました。

鈴木福島県副知事をはじめとした多数の来賓をお迎えし、道内県人会から会員の皆様等、合計八十九名が出席しました。

総会では事業計画や予算が承認され、次回の総会開催を函館福島県人会が担当することが決定されました。

式典では、長年県人会の発展に寄与された皆様に、福島県知事、福島県人会北海道連合会長からの感謝状が贈られました。

懇親交流会では、御来賓の方々等から御提供いただいた福島県産日本酒等を味わいながら、母県の思い出話に花を咲かせ、副知事をはじめとした御来賓の方々や、会員同士の交流を深めました。また、旭川福島県人会の皆様による、フラダンスや舞踊、カラオケが披露されるとともに、ペーパン福島踊り保存会の皆様によるペーパン福島踊り、北海盆踊りも披露され、最後には、参加者全員で「ふるさと」を合唱して会場は大いに盛り上がりました。

【感謝状受賞者】

福島県知事
近藤　康弘　様（美幌町）

福島県人会北海道連合会長
石幡　秀明　様（札幌）
栗城　新　様（旭川）
川音　隆行　様（旭川）
照井　歌子　様（美幌町）
森谷　智子　様（美幌町）
五島　洋子　様（千歳）
野地　重信　様（千歳）
渡邉　治　様（千歳）
白岩　隆　様（千歳）
星　輝雄　様（千歳）
渡辺　健治　様（苫小牧）

【懇親交流会での「ふるさと」の合唱】

【知事感謝状を受賞される近藤様】

会員通信

福島県人会旭川に集う

千歳福島県人会
会員　上田　政則

令和元年五月十八日天気快晴風強し。

苫小牧福島県人会の皆さんに同行させていただき（白老観光バス）道中楽しく旅させて頂き有難うございます。

福島と縁のある人、福島が大好きな人、福島の酒が大大大好きな人、ふるさとを同じく思う方々がここ旭川に集合し春の訪れのように再会を喜び合いました。歌あり、フラダンスあり、近況報告楽しく語らい、素晴らしい一夜を過ごす事ができ旭川の皆さん有難うございます。感謝の気持ちで一杯です。

ペーパン踊りの言葉を聞いたとき何語（アイヌ民族の言葉）米飯とのこと、ペーパン踊りはまさに開拓の歴史そのものでしょう。今でも目を閉じると先人の苦労、喜び、開拓精神が太鼓のリズムに乗って聞こえてきます。ペーパン福島県人会、ペーパン福島踊り保存会の皆さん有難うございました。最近にない感動でした。町の居酒屋でもペーパン踊りは旭川市民が知っていると聞き何と素晴らしいことですか。北海道で福島県の歌、踊り等どのくらい保存（継承）されているのでしょうか。一度確認したいものですね。

先日ある会議で自己紹介をすることになりました。「出身は福島の会津で趣味は〇〇です」会津の身不知柿の話、干し柿の天ぷら、イナゴの佃煮等の話を自慢げに話をしていましたら、顔は存じ上げているのですがお話したことはなく私の前に来て、K氏が「私の父も福島の会津出身です」「医者にしたく息子を連れて猪苗代の記念館を訪れ、野口英世の偉大さを話し聞かせてあげました」「お蔭様でその息子が医者になりました」とのこと、努力された息子さんも立派ですが、福島を誇りに思う気持ちが伝わり、嬉しく心温まる話でした。

千歳は自衛隊の町で特に九州、東北等の出身者が多く（東北六県＋新潟県）で年に一度親睦会を実施し意見交換をしております。また年末には二十県ほどが集まり郷土自慢の餅つき大会を実施しています。わが県のヨモギ餅が市民には大好評ですよ。

この故郷に何かできることはないか、いろいろ考えるが難しいですね。苫小牧県人会のように桃の販売で福島県、苫小牧市民に喜ばれているとのこと、目的を共有できれば若い人も入会し県人会も活気に満ちてくるのでは。

次回は戊辰戦争最後の地、函館です。函館の皆さんよろしくお願いします。

ソヨのふるさと

旭川福島県人会
会員　原武　ふみえ

道北・美深の市街地から六キロほど北上した斑渓地区は、明治四十年に福島県より三十戸が移住し、児島農場の小作人となって本格的な開拓が進められた農村である。

祖母原武ソヨの旧姓は羽山。明治十一年、福島県双葉郡双葉町大字細谷字陣場澤生。萱濱村字蔵前生まれの夫伊助と共に大正二年に中富良野村へ入植している。

昭和二十二年、私の家族は美深の街で暮らすことに、ソヨのきょうだい、親戚が斑渓地区で農業を営んでいた。神社のお祭りに遊びに行き斑渓小学校の広場へ、蛍とぶ田んぼ道を歩いて演芸会を見に行ったことがある。

双葉町にはソヨの実家（本家）が

あるのは知っていたが私との交流はない。またいとこにあたる札幌在住の志村せい子さんが交流をしており、3・11前に訪問し、親交を深めている。

あの日は、平穏な道北でもただならぬ揺れであった。大地震、大津波、原発事故は、福島の血を受けつぐ私にとって、未だに息をのむ出来事となっている。

福島県の地図を広げてみる。第一原発は双葉町と大熊町の境にあるように見えるが双葉町に建っている。せい子さんの話によると羽山家はゴルフ場を持ち、事業を経営されていたとのことである。全町避難のもと栃木県那須町へ疎開し、いまではその地に家を建て生活されているとの情報である。

―『事故から七年、今なお帰還困難区域に指定された住民は許可なく立ち入ることはできない「福島民報ホームページ」より抜粋』―

昭和三十一年、八十歳で死去したソヨは六つで子守に出されたと言っていたが、私にその後の生い立ちを質問する知恵もなく死なれてしまった。断片的に聞いたのは、浪江、小名浜、原ノ町、郡山、相馬野馬追い。小話は、川原にいたという「かあらんばぁさん」。奇妙なお囃子ことば「ソウロタ　ソロタ　キッカタブッシャ　ソロタ」が想い出される。

友との別れ

札幌福島県人会
副会長　船山　一

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分、世界を震撼させた東北大震災から、五年目を迎えた早春の頃、私の携帯に、遠く離れた福島と札幌とで人生の喜怒哀楽を共に歩んで来た竹馬の友が、帰らぬ旅へと立たれたとの訃報の知らせが届いたのはまだ記憶に新しい。彼の口癖はいつお逢いした時でも、人間いつかは死を迎えるが、どのような境遇や場であっても、友情と絆そして笑顔を忘れることなく日々を送っていきたい。その彼の言葉は座右の銘の中の人生訓であったのかもしれない。

彼は日常生活の中にあっても、有言実行の男だった。お別れのとき、安置された彼の顔を私はそっと覗いた。笑みを浮かべているようにも見えた。その情景からは、元気だった頃の表情が思い出される。しかし返事などはあり得ないが、いつもの君は、間髪入れずに速返事が返ってきたのに…また彼の風呂好きは、仲間内では定評があった。

口癖をまた想い出す。

一生かけても、国内の温泉を廻って、その湯舟に浸かりたい。その彼の言葉が、スローライフを生き甲斐とする彼自身の生き方でもあったように、思えると同時に、脳裏には彼の湯けむり紀行なるものが描かれていたものと私は推察していた。

還暦を迎えた頃であったと思うが、旅先からの音信で、草津の湯に居るとのこと、話はこうである。恋の病は俺には無縁だが、いまいのちの泉に浸かっている。その生命力と生きている喜びが、湯舟の中から伝わってくるように思える。その彼の言葉が、私の脳裏から離れない。確かに彼は湯けむり紀行から戻る度に、生きる元気をいただいて帰ってきたように見受けられた。しかし私は、彼の元気な姿を二度と見受けることはあり得ない。

来世でも、湯けむり紀行に励んで居ることを私は現世で願っている。そして友よ、安らかに眠ってほしい。

県人会の活動

美幌町福島県人会創立四十五周年記念式典に参加して

美幌町福島県人会
顧問　打地　健一

庭の木々の芽が積雪少ないのに春の日々が待ち遠しい早春の美幌にて北海道議会議員高橋文明様、福島県人会北海道連合会会長田中四郎様ご祝辞、福島県北海道事務所次長新田耕作様を迎い四十五周年記念式典を開催。席上では近藤会長より副会長二名事務局長一名の者が表彰され、又、近藤会長は実行委員会会長打地健一より表彰授与された苦労が報われた感じが致します。

近藤康弘会長も会長職八年、又、美幌町福島県人会フェスティバル等の発展に尽し下された。発足四十五周年を迎えた事は会員一同慶です。

東北震災の時には母県を想い、涙し、北の大地で一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

これからも美幌町福島県人会益々発展のため心機一転躍進する事をお祈りするとともに一致団結することを誓います。

祝賀会終了後カラオケにてそれぞれの美声を発揮して会員一同絆を深めた事は言うまでもない。

【カラオケ大会の様子】

美幌町福島県人会創立四十五周年を迎えて

美幌町福島県人会
副会長　前崎　孝子

美幌町福島県人会が創立四十五周年の記念すべき日を迎えられ二月二十四日先人の苦労を忍びながら美幌グランドホテルにて式典を執り行いました。この席で北海道議会議員高橋文明様を始め、北海道事務所新田耕作様より祝辞をいただき、また参議院議員若松かねしげ様、福島県人会北海道連合会会長田中四郎様から心温まるメッセージ等お祝いの言葉が届きましてこの式典に華をそえていただきました事に感謝の気持ちで一杯でございました。この晴れの日に当たり近藤会長は打地顧問から、前崎副会長、吉田副会長、大竹事務局長三名は近藤会長よりそれぞれ表彰されました。この意義ある創立四十五周年を迎えられたのも、先輩方々が故郷に思いを馳せながら今日まで、努力されてきました賜物ではないかと思いこれからもこの会が新しい元号に移り変わりましても故郷への思いは同じでありますので次の代まで引き継いで参りたいと心に誓い式典が無事終わりまして、その後懇親会にはいりとても和やかなひと時を過ごすことができました。最後に美幌町福島県人会副会長吉田孝さんの締めにてこの会の発展を誓い創立四十五周年記念すべき日を終えることができました。

【表彰式の様子】

【創立四十五周年記念式典祝賀会での集合写真】

「傷心惨目碑前祭」を開催

函館福島県人会
事務局長　菅野　広道

箱館戦争で戦死した会津藩士を供養する「傷心惨目碑前祭」を今年も五月十一日（金）、高龍寺に於いて十五名が参列して行われました。札幌からは今年も田中道連合会会長、県北海道事務所からは新任の長谷川所長、それに交流中の紺野函館宮城県人会会長が出席されました。

永井正人住職が読経し、参列者が一人ずつ焼香し、箱館戦争で犠牲となった会津藩士を偲びました。

永井住職は今年が箱館戦争終結から百五十年の節目になることに触れ、「ここを訪れ手を合わせる市民や観光客も多い。悲しい事件の礎の上に我々の今がある。過去を忘れずに次の代に伝えることが大事」などと述べられました。

碑前祭は昭和五十五年から続けていますが、これからも長く続けて行きたいと思います。

その後、会員の郷土料理店・魚来亭で昼食会を開催し歓談しました。碑前祭の模様は翌日の地元紙でも報道されました。

【高龍寺境内にて会津藩士を偲ぶ】

【傷心惨目碑前祭での集合写真】

函館福島県人会「観桜会」を開催

四月三十日（土）午前十一時から五稜郭タワー内の「旬花」で観桜会を開催、会員十一名と交流中の函館宮城県人会から二名の十三名が出席されました。好天にも恵まれた満開の五稜郭公園の桜の雰囲気を間近に感じながら心地よい酔いに話にも花が咲き、楽しいひと時を過ごしました。

当日はこの度の市議選で当選された小山会長と島幹事のお二人にお祝いの花束が贈られ一層会の雰囲気を盛り上げました。

お二人の今後の活躍を大いに期待したいと思います。

新会員の紹介

札幌県人会
佐々木　正　様（出身　いわき市）

函館県人会
櫻井　くみ　様（出身　福島市）
紺野　進　様（出身　札幌市）

苫小牧県人会
小山田　渚　様（出身　石川町）

福島県からのお知らせ

全国新酒鑑評会金賞受賞数 七年連続日本一に輝きました

独立行政法人酒類総合研究所が開催している平成三十酒造年度「全国新酒鑑評会」において福島県から三十一銘柄が入賞、うち二十二銘柄が金賞に選ばれ、金賞受賞数で全国一位となりました。

金賞受賞数で全国初の七年連続第一位、通算九度目の日本一となりました。福島県の酒造業者の高い技術とたゆまぬ努力によって作り上げられた「ふくしまの酒」の品質が本年も高く評価されました。

全国に誇れるおいしい福島県の日本酒を皆様も是非ご賞味ください。

くだもの消費拡大委員会による北海道でのもものＰＲが実施されました。

七月十六日（火）から十八日（木）の三日間、北海道内（札幌市・旭川市）にて福島県くだもの消費拡大委員会によるもものＰＲが実施されました。福島県からはミスピーチキャンペーンクルー（五十嵐まゆみさん、遠藤優佳さん）をはじめ、主要産地である伊達市や国見町、全農福島県本部、ふくしま未来農業協同組合、県農林水産部が来道し、市場や関係機関、県人会等を訪問し、旬を迎える福島県産もものおいしさをＰＲしました。

【札幌県人会との懇談会】

【旭川県人会との懇談会】

福島県産ももPRイベント「ふくしまプライド。in 北海道」を開催しました

八月一日（木）に、札幌市内で福島県産ももPRイベントを開催し、ミスピーチキャンペーンクルー（佐藤さわさん）やHAPPYふくしま隊が駆けつけ、出荷の最盛期を迎えたもものおいしさをアピールしました。

ステージでは、HAPPYふくしま隊によるパフォーマンス、道内で活躍するHAPPY少女によるパフォーマンスなどを行いました。

会場では、ももの試食提供のほか、ももやももジュース、ままどーるなどの県産品、二本松市の地酒「人気酒造」の試飲販売を行い、多くの方がおいしい福島のお酒とももを買い求め、大変な賑わいをみせました。

そのほか、七月三十日（火）から八月四日（日）にかけて、札幌市、旭川市及び函館市内のスーパーマーケット等延べ十八店舗で福島県産ももの店頭試食販売会を開催し、各店舗ともおいしい福島のももを買い求めるお客様で賑わいました。

【札幌にてPRを行うミスピーチとHAPPYふくしま隊】

【ももをプレゼントするミスピーチ（佐藤さわさん）】

新任職員紹介

福島県北海道事務所　所長
長谷川　利嗣（出身　郡山市）

4月から北海道事務所勤務となり、あっという間に4ヶ月が過ぎました。福島県人会北海道連合会総会や各地区の県人会総会などに参加させていただき、県人会の皆様にはとても親切にしていただき感謝しております。

3月までは、人事委員会事務局というところで、県職員の働き方改革などの業務に関わっておりました。働き方改革というとなんだか仰々しいですが、少子高齢化の波が社会全体に押し寄せてくる中で、持続可能な社会を実現すべく、国を挙げてこれまでの働き方を変えていこうとする働き方改革関連法が成立したことを踏まえ、公務労働においても、これまで以上に、職員のワーク・ライフ・バランスに配慮し、働きやすい勤務条件を整備していく必要があり、そのための制度改変を担当しておりました。

家族は、県職員である妻と、東京で暮らしている大学4年生の娘、母の4人です。私の自宅は郡山にあり、県職員生活の大半を、県庁のある福島市まで新幹線で通勤しておりました。

今回は、県職員生活で初めての単身赴任生活となりますが、毎日、真駒内の公舎から南北線で職場まで地下鉄を使って通勤するという、大都会札幌でのシティライフに圧倒されながらも、美しい木々の緑と人々の喧噪とが程よく調和したこの街での生活にも徐々に慣れてまいりました。

これから、秋を経て、厳しい冬を迎えることとなりますが、北海道の四季を楽しんでいきたいと思います。北海道にはもともと知り合いもなく、皆様とお会いするのをいつもとても楽しみにしております。今後ともよろしくお願いいたします。

Future From Fukushima.
ふくしまから はじめよう。